

# 投資信託のコスト①購入時手数料



- 購入時手数料は投資信託を購入する際の説明や事務手続等の対価として、販売会社に支払う手数料であり、販売会社が独自に定めるもの
- 全く同じ投資信託を購入する場合でも購入時手数料は販売会社によって異なることがある
- 販売会社だけが購入時手数料を受け取るため、委託会社や受託会社は受け取っていない
- 購入時に投資信託の説明等を受けて投資判断を下したいのか、そのような説明は必要ないのかなど、ご自身の投資経験や知識に基づいて選ぶことが大事

## 投資信託の購入時にかかるコスト

今回は投資信託のコストのうち、購入時にかかるコストとしての購入時手数料についてご説明します。まず、投資信託に関わる主な会社には販売会社、委託会社、受託会社があります。

- ・ 販売会社：投資信託を販売している会社（証券会社や銀行など）
- ・ 委託会社：運用の指図を行う会社（運用会社）
- ・ 受託会社：信託財産の保管および管理を行う会社（信託銀行など）

購入時手数料は投資信託を購入する際の説明や事務手続等の対価として、販売会社に支払う手数料です。つまり、購入時手数料は販売会社のみが受け取る手数料で、その他の委託会社や受託会社は受け取っていません。

交付目論見書等には「手数料の額は、販売会社がそれぞれ独自に定めるものとします。」というような記載があります。よって、購入時手数料は販売会社が自由に決めることができるため、インターネット証券を中心にノーロード（購入時手数料無料）の投資信託もあります。また全く同じ投資信託を購入する場合においても、異なる販売会社で購入すると、購入時手数料が違う可能性があります。

## なぜ支払う必要があるのか？

購入時手数料はどのように支払う必要があるのでしょうか。例えば、銀行の店頭で投資信託を購入する場合を考えてみましょう。販売会社の窓口を訪ねると、購入を検討している投資信託について、どのような商品なのか？何に投資をしているのか？リスクは何か？今の投資環境はどうなっているのか？等、様々なことの説明を受け、質問にも答えてくれます。特に投資経験が浅い方は、投資信託に関わる文言は難解なものが多いため、誰かに分かり易い説明を受け、相談したいものです。果たしてそのやりとりにはコストはかからないのでしょうか？そうではありません。お客様に説明する社員の人件費、事務手続きに必要な用紙の印刷費用、システム費用等、実は様々な費用がかかっています。

また一方でインターネット証券で投資信託を購入する場合を考えてみましょう。一般的に銀行等の窓口で購入するより購入時手数料が安い傾向にあります。それは購入に伴うコストが窓口よりも低く抑えられているからです。よって購入時手数料が安い代わりに、対面で説明を受けたり相談することはできません。

さらにインデックス運用とアクティブ運用の投資信託を比較した場合、インデックス運用の方が購入時手数料が低い傾向にあります。アクティブの運用の場合にはどのような運用手法なのか？、どのような投資成果を目指すのか？等、より多く説明が必要となるからです。

購入時の手数料が低いに越したことはありませんが、果たして説明等なしに購入の判断が下せるのか、それとも誰かの説明を受けたいのか、ご自身の投資経験や知識に基づいて選ぶことが大事です。

### 当資料をご利用にあたっての注意事項等

- 当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。
- 運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。
- 当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。
- 当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。
- 投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。
- 投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- 当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。

# 「投信新世代」のための基礎知識

## 「iInfo」はピクテのインターネット専用「iTrust」シリーズの 受益者のみなさまにご提供する**会員限定サービス**です。

ピクテのiInfoには投資家のみなさまの、  
**「プロ並みのファンドや市場環境の情報がほしい」**  
**「投資に役立つ知識を自分のペースで学びたい」**  
 …というご要望を満たす様々な情報をご用意しております。

具体的には、iTrustシリーズのバリュエーションレポートやピクテの短期・長期の投資環境見通しを紹介した戦略レポート「Barometer」  
 「Secular Outlook」、投資の基本をやさしく学べる「BASE VIDEO & TEXT」、コラム「投信新世代のための基礎知識」など、様々なコンテンツが用意されています。

### iInfo詳細はこちら

<https://www.pictet.co.jp/itrust/iinfo>



iInfo

(「iInfo」で検索してください)



### iInfo by Pictet Facebookページのご紹介

iInfoのFacebookページができました！  
 ここでは、私たちが日々取り組んでいることや、  
 みなさまのお役に立てそうなことなど、  
 様々な情報をお届けしてまいります。

iInfo by Pictet Facebookページ

<https://m.facebook.com/iinfo.pictet.jp/>



iInfo

(Facebookで「iInfo」  
と検索してください)



#### 当資料をご利用にあたっての注意事項等

- 当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。
- 運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。
- 当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。
- 当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。
- 投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。
- 投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- 当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。